著者紹介

■松方冬子（まつかた・ふゆこ）

東京大学史料編纂所・准教授。博士（文学）。オランダ語史料と日本語史料を併用し、日本の近世を中心に世界の外交史を研究している。『オランダ風説書と近世日本』（東京大学出版会、2007年）、『オランダ風説書―「鎖国」日本に語られた「世界」―』（中公公論新社、2010年）、『日蘭関係史をよみとく（上）つなぐ人々』（編著：臨川書店、2015年）、『国書がむすぶ外交』（編著：東京大学出版会、2019年）などの著書がある。

■岡本隆司（おかもと・たかし）

京都府立大学・教授。博士（文学）。中国近現代史を専門とし、また、近代アジア史や世界史に関する研究にも従事している。主な著書には、『近代中国と海関』（名古屋大学出版会、1999年）、『属国と自主のあいだ』（名古屋大学出版会、2004年）、『中国の誕生』（名古屋大学出版会、2017年）、『世界史序説』（ちくま新書、2018年）など多数。

■廣野美和（ひろの・みわ）

立命館大学・准教授。専門は国際関係学。中国のPKO活動や人道援助問題など、紛争地域での中国の役割について研究している。著書・論文には、*Civilizing Missions: International Religious Agencies in China*, New York: Palgrave MacMillan, 2008、*China's Evolving Approach to Peacekeeping*, London: Routledge 2012（M. Lanteigneとの共著）、'China's Conflict Mediation and the Durability of the Principle of Non-Interference: The Case of Post-2014 Afghanistan', The China Quarterly, September 2019, pp. 614-634など多数ある。

■山下範久（やました・のりひさ）

立命館大学・教授。歴史社会学、社会理論、世界システム論専攻。著書に『世界システム論で読む日本』（講談社選書メチエ、2003年）、『現代帝国論』（NHKブックス、2008年）、『ウェストファリア史観を脱構築する』（共著、ナカニシヤ出版、2016年）、訳書にはA・G・フランク『リオリエント―アジア時代のグローバル・エコノミー』（藤原書店、2000年）など多数ある。

【編集後記】

東京大学ヒューマニティーズセンター（HMC）より、Humanities Center Booklet, Vol. 4をお届けします。

本号は、2019年12月20日に行われたHMCオープンセミナー特別回「「社会科学と人文学の対話――『国書がむすぶ外交』総論を素材に」の講演録です。

セミナー開催に当たって、コーディネーターの松方冬子氏（史料編纂所・准教授）をはじめ、岡本隆司氏（京都府立大学・教授）、山下範久氏（立命館大学・教授）、廣野美和氏（立命館大学・准教授）、東京大学史料編纂所には、企画段階からお世話になりました。

本号の編集に当たり、江口絵理様（ライター）にご尽力いただきました。また、文字起こしに当たり、速記センターつくば様のお力を借りました。改めて御礼申し上げます。

HMC事務局（川村朋貴）

Humanities Center Booklet Vol. 4

「社会科学と人文学の対話
――『国書がむすぶ外交』総論を素材に」

松方冬子，岡本隆司，廣野美和，山下範久

2020年7月10日発行
編集発行者　東京大学連携研究機構ヒューマニティーズセンター
東京都文京区本郷7-3-1東京大学附属図書館4階
ISSN　2434-9852
印刷者　株式会社サンワ
フォーマットデザイン　株式会社編集家族

©東京大学連携研究機構ヒューマニティーズセンター